2017 年 7 月
船井情報科学振興財団 Funai Overseas Scholarship
奨学生レポート No.9
Cavendish Laboratory, University of Cambridge, Jesus College
篠原 肇(hs539@cam.ac.uk)

船井情報科学振興財団 Funai Overseas Scholarship (FOS) 2013 年度生としてケンブリッジ大学キャベンディッシュ研究所 博士課程(PhD in Physics, Cavendish Laboratory, University of Cambridge)に留学中の篠原肇(しのはらはじめ)です。以 下第 9 回 FOS 奨学生レポートとして、前回 2016 年 12 月の第 8 回レポート提出以降の進捗状況や現在の近況を報告し ます。

研究

早いもので、標準の 3 年 6 か月の期間が終了した。装置の故障などにも遭い、ひたすら執筆の日々。そして直される日々である。主にパソコンに向かって書いているだけなので、もはや研究者というよりも作家になった気分である。共同研究者や他の研究グループの人が装置を使いたいと言い出し、訪れる。その際は一瞬エンジニアかテクニシャンになった気分になる。

本レポートを執筆段階で、博士論文自体は、ほぼ完成しているものの、英語の表現を中心に直しが入ることなど、疲弊する日々である。エンドレスで直している感が否めない。卒業までの辛抱だと思い続けることにしている。

登壇

さて研究に関連して、特に今期は登壇することが多かった。特に変わったものを紹介したい。

Graduate Conference

学寮と訳されるカレッジには、学部に関係なく様々な専攻や身分の人が在籍している。その中で行われた大学院生向けのカンファレンスに応募し発表を行った。分野が多岐にわたるため、研究内容そのものよりも、分かりやすく説明する能力、アウトリーチ・トークスキルが重視される。会場は学内の歴史のある図書館。今回の基調講演者は、Sir Richard Darelove。この方は 007 のジェームズボンドのモデルとなったイギリスのスパイ、イギリス秘密情報局、通称 MI6 の元長官。ちなみに「殺しのライセンス」は無いそうである。

私は「量子フラストレーション系物質」について発表した。人間関係や地図、ケーキを焼くパティシエ等の、日常の身近なものを例として挙げ、説明を行った。数式を嫌いと宣言している文学専攻の方などにも「物性物理分かったかも！」というコメントを戴いたりと、非常に有意義であった。

結果として、他の登壇者の大半がネイティブスピーカーの中、純ジャパの私が最優秀講演賞を受賞してしまった(写真 1)。日々の生活、周りの方々のおかげで、英語の能力も入学当時と比較し、少しは向上したようである。賞品は、基調講演者の Sir Richard Darelove 本人の直筆入りのゴールドフィンガー007 の DVD。なんとも気の利いた景品である。

写真 1. 最優秀プレゼン賞。表彰後マスター(学長)と。

Alumni and Donors' Garden Party

写真 2. 発表中の様子。赤黒のネクタイはカレッジカラー

上記の Graduate Conference がきっかけで、学期明けに行われる年次卒業生・寄贈者園遊会(Alumni and Donors' Garden Party)において、現役学生代表の 1 人として講演の依頼を受け、登壇し、講演を行った。 個人的にもカレッジには金銭的な支援も含め、大変お世話になっているため、御礼を述べさせていただく非常にいい機会となった。ジーザスカレッジの公式 Facebook ページにも私の写真が上がっていた(写真 2)。

ガーデンパーティーのレセプション会場は、レッドカーペットの敷かれたテントであった。仮設のテントにもかかわらず、レッドカーペットが敷かれ、シャンデリアが設置されていた(写真 3)。

Three Minute Thesis (3MT)

スライド 1 枚・3 分で研究発表を行う大会「Three Minute Thesis (3MT)」にも出場した。数十人参加していた一次予選を突破し、決勝大会の 4 人に選出された(写真 4(a))。決勝大会では、結果として、優勝は出来なかった。

ただ、決勝の会場は、ケンブリッジ・ユニオン(Cambridge Union)。この会場は現存する最古のディベートクラブとして知られており、レーガン、ルーズベルト、チャーチル、サッチャー等、歴史的な重要人物が多数登壇している。現に、この大会の一週間後に 2016 年アメリカ大統領候補のバーニー・サンダース氏が講演していた。個人的には、3 分間とはいえ、このような場所に登壇できただけで大変光栄であった(写真 4(b))。

写真 3. 園遊会のマーキーテント。仮設にも拘わらず、レッドカーペットとシャンデリアの設置。

この後、カレッジでも 3 分コンテストのディナーイベントがあった。私は、上記のようにすでに 3 分での発表を組み立てていたので、参加人数が必要であれば数合わせとして参加する、ということで出場した。結果として、優勝はしなかった。が、ディナー後に審査員から話しかけられた。審査員によると、「私は既にカレッジのカンファレンスの方で優勝しているし、大学の 3 分トークの決勝にも残っていたので、もういいだろう。」ということで見送りになったとのことであった。いわゆる殿堂入り扱いであった。実のところ、私としても機会平等ということで、私が受賞どころか、発表自体をしない方がいいだろうと考えていた。いずれにせよ発表者特典として、4 コースのディナーが無料になったので良しとしよう。

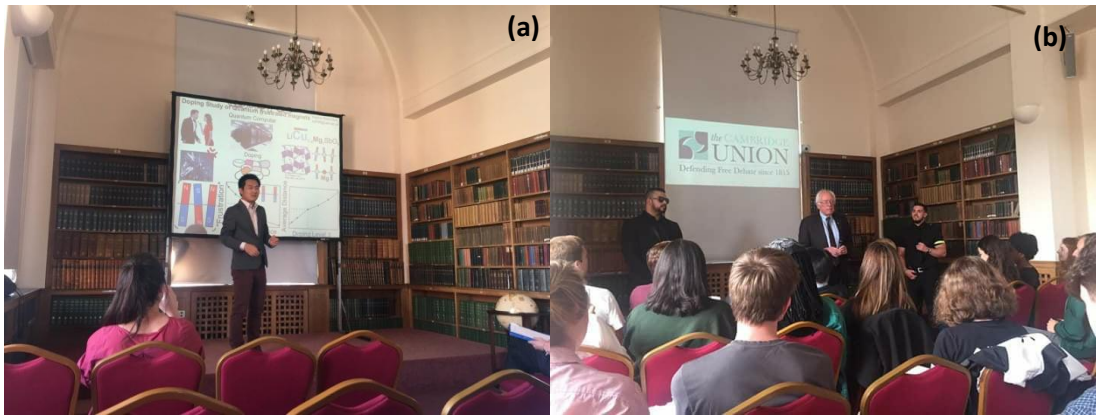

写真 4. ケンブリッジユニオンの一室。(a) 3 分論文コンテスト決勝大会で発表をしている筆者。(b) バーニーサンダースアメリカ大統領候補。全く同じ部屋である。

イギリス大使館

さて、お国柄、上記のように英語での発表が大半であるものの、日本語での発表もイギリス大使館でのイベントで登壇した。これは分野間交流を行う目的であった。大使館内は撮影禁止のため、写真はない。こちらも、日本大使館で講演という貴重な経験と、寿司など日本食が食べられたのでよかったとしましょう。

高校生向け

日本から高校生がいらっしゃった際に講演を行った。主に、やる気になってもらうことを目的としている。会場はケンブリッジ町内のチャペルであった(写真 5)。なんとも神々しい。まさかこんなところで話すとは思ってもいなかったので、会場にたどり着けずに迷ってしまった。決して宗教勧誘などはしていない。

私の発表に対する感想などもインターネットで閲覧することができる。やる気になっていただけていれば幸いである。
http://www.maebashi-hs.gsn.ed.jp/tokushoku/oxbridge/h29report/6.pdf

写真 5. 教会内の発表会場。

スポーツ

コーフボール

個人としても上達してきており、相手のエースとのマッチアップが多くなった。現に U23 のイングランド代表選手や、2017 年 7 月に行われるオリンピック競技のオリンピックとして知られる、ワールドゲームズのイギリス代表とのマッチアップ等もあった。東イングランド大会を準優勝で通過し、例年通り、イギリス・インカレ本戦に出場した。3 年連続である。結局 9 位に終わり、ケンブリッジ大学の選手として、インカレのメダルに届くことはなかった。

写真 6. バーシティマッチにて。

ケンブリッジ州選抜フル代表

シーズン後に行われるイギリスのエリア別対抗戦に、ケンブリッジ州選抜のフル代表に選出された。これはイギリスを 12 エリアに分け、各選抜チームで行われる大会である。日本でいうところの、関東選抜相当である。イギリス代表など、知っている選手を何人も見かけることになった。動きも速く、かなりきつい戦いであった。結果としてケンブリッジ州代表は 8 位であった。

バーシティマッチ

オックスフォード大学との定期戦バーシティマッチに出場した(写真 6)。こちらも 3 年連続である。スタメン出場し、フル出場。個人でペナルティショットなしで 6 点を記録し、単独得点王。ルールを考慮したコーフボールの個人得点で 6 点は、バスケットボールでいうところの、「フリースローなしで個人得点 40-50 点」相当である。結果として大会 MVP を受賞した。

スポーツ賞

コーフボールの場合には、バーシティマッチにスターティングメンバーで出場し、さらにインカレで 10 位以内に入るとハーフブルーの称号が得られる。よって再受賞した。この称号が得られると、ジャケットを「着る権利」が得られる。

昨年に続き、二年連続でケンブリッジ大学のスポーツ賞であるホークス賞(Hawks’ Charitable Award)を授与された。授賞式に上記のジャケットと着用して参加した(写真 7)。なお、借り物であり、私のものではない。

所属するジーザスカレッジからは、スポーツ賞であるドウグラス・ティミンズ賞(Douglas Timmins Award)を授与された。

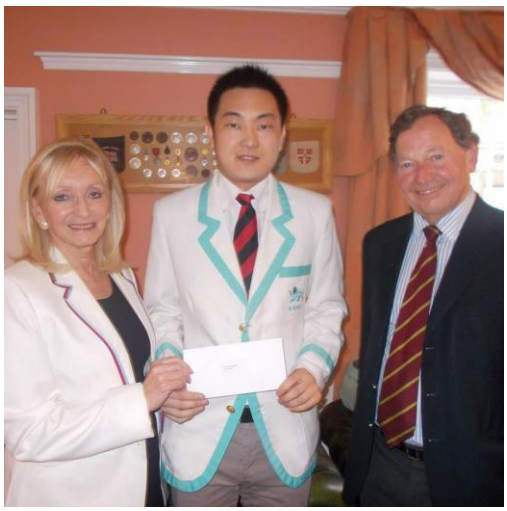

写真 7. ホークス賞受賞式。ハーフブルージャケットを着用。

Korfys’ Award

今年はクラブが、アカデミー賞のような、アワードレセプションが開催された。ドレスコードはブラックタイ(タキシード)。事前にクラブのメンバーに投票のアンケートが送られてきた。誰がどれに相当するかを自分以外の選手に投票する。表彰はコーチが選ぶ MVP 等の真面目なものから、ソーシャル(飲み会)で活躍した人、写真写りがよい人など様々。

写真 8.授賞式。選手が選ぶ年間最優秀選手。

個人的には、全く予想もしていなかったが、プレイヤーズ・プレイヤー・オブ・ザ・イヤー(Players’ Player of the Year, PPY)を受賞した(写真 8)。 PPY は、選手が選ぶ年間最優秀選手である。PPY について調べたところ、一般的に、選手としての最高栄誉とされることが多い。

他の選手がほぼ全員イギリス人の中で、私が選ばれたというのは、大変光栄であった。日本でいえば、例えば、日本にベトナム人留学生が来ており、年間最優秀賞を決める際の投票で、そのベトナム人を支持する人が最多になるのと、似たような状況ではないだろうか？我ながら、なかなかないのではないか、と考えている。

ソーシャル

日本酒と和食のイベント

日本大使館から招待いただき、ケンブリッジ大学のカレッジで開催された日本酒と和食のプロモーションイベントに参加した。(写真 9)このイベントは、スイスの世界経済フォーラム、ダボス会議での料理を終えた、ミシュラン三ツ星レストランのシェフが、その直後にケンブリッジ大学で開始されたものである。こちらの産経ニュースのページ(日本酒と和食の魅力紹介　英名門ケンブリッジ大で産経ニュース)にも取り上げられている。記事によると「将来、オピニオンリーダーとなる可能性がある学生らに日本酒や和食のファンになってもらい、世界での普及につなげる狙い。」とあるので、オピニオンリーダーになれるよう頑張りたいところである。

写真 9. 和食・日本酒イベントの様子。
引用(sankei.com)

屋外パーティ

BBQ

写真 10. ガーデンパーティー

イギリスは、緯度が高いため、冬は暗く長い。その憂さを晴らすかのように、夏の間は頻繁に屋外でのパーティー・食事会が開催される。バーも屋外の席の方が人気になる。むしろエアコンがないだけかもしれない。ガーデンパーティと比較し、バーベキューの場合には、バーガーやソーセージをあぶる。ベジタリアンオプションは、ハロウミチーズが使われることが多い。

ガーデンパーティ

BBQ パーティと似たようなものだが、ドレスコードが指定されていたりなど、一般的にガーデンパーティのほうが BBQ よりは畏まったものの可能性が高い。振舞われるものは、いろいろあるが、必ずと言っていいほどあるのは、ピムス、ストロベリー・ミルク、スコーンである。この他に、シャンパンやサンドイッチなどもある(写真 10)。全体的にお洒落。

メイウィーク

毎年行われる夜通しのパーティにも参加した。メイウィークと呼ばれる試験期間が明けた次の週は、ひたすらお祭り騒ぎである。この週は同窓会の側面も多いようで、元同僚の修士課程の卒業生などにも多く会う機会となった。ケンブリッジ伝統のボート大会や、段ボールボートレースなど様々である。

夜通しで行われる舞踏会・メイボールにも参加した。15 世紀の建物がスポットライトで照らされたりと、なんとも幻想的な光景である。

内部ではシャンパンなどの酒類のほかにも、いろいろな食べ物が配布されていたり、バンドや有名な方が演奏に訪れたりと、さまざまである。移動遊園地のようなものまである。明け方 5 時過ぎまで続き、最後まで残った人たちで「サバイバーズフォト」を撮って終了する。詳しくは以前のレポート(No.3)などを参照いただきたい。(写真 11)

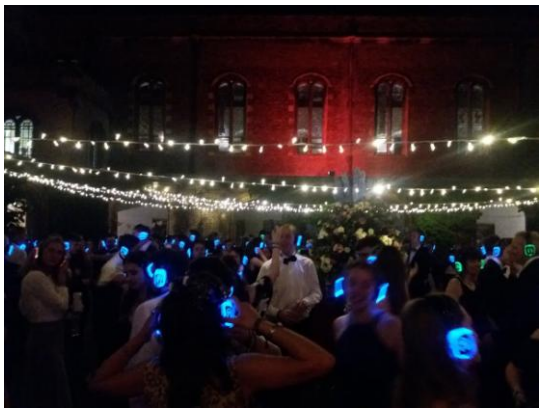

写真 11. メイボール・サイレントディスコ。ヘッドフォンには音楽が流れている。

End of Year Dinner

アカデミックイヤーという意味では 4 年目がちょうど終了した。修了ディナーが開催された(写真 12)。博士課程 1 年生の最初からの付き合いの友人は、入学式の初めと最後での比較写真を撮るのが流行っていた。

修士コースは 1 年生のため入れ替わりが非常に激しい。これでアカデミックイヤーを 4 周したというのはなんとも感慨深いものであった。

写真 12. End of Year Dinner. 白黒で撮影したら歴史的な写真に見えた。

メディア

ブログのアクセス数向上やその他講演や記事に伴い、多方面から依頼をいただく頻度が増えてきている。少し紹介する。

記事

上記のスポーツと研究発表に関して、大学・カレッジ公式ページのニュースに「大学院生がコーフボールと研究講演で多数受賞」と取り上げられた。Graduate student awarded multiple awards for Korfball and research talks.
上記の Graduate Conference での講演が評判がよかったようで、注目講演として年次報告書(Annual Report)の特集記事が掲載されるに至った。2017 年 10 月掲載予定である。
日本の化学雑誌、現代化学(東京化学同人)へのコラム記事が掲載された。主に日本の大学との比較である。

ウェブデザイン

私が運営しているサイトにおいて、「最も操作しやすく、読みやすいサイトを構築するはどうすればよいか？」と考え、フォントの色や形、背景との組み合わせ、ガジェットの位置などを地道に調整していった。何が評価されたのかは私からは定かではないが、第 41 回日本 web 大賞(日本 Web ユーザーズ協会)を受賞した。過去の表彰一覧を見る限りでは大半が企業や自治体のサイトのようなので、個人のブログが受賞した例は珍しいようである。

フォトグラファー

以前タンザニアで撮影した写真が、科研費組織 EPSRC の研究フォトコンテストで最優秀賞を受賞した(写真)。そのことが、以前創始者兼プロジェクトリーダーを担当させていただいた際にお世話になった、ケンブリッジ大学の NGO グローバル平等センター(Centre for Global Equality)公式ページにも取り上げられていた。

People and Skills category, 1st
Purifying polluted water, Michael Coto, University of Cambridge

Photo: Hajime Shinohara

写真 13. EPSRC Photo Competition

テレビ出演

「セグウェイポロをよく知る人」としてテレビ出演をした。セグウェイポロは、セグウェイに乗りながら、ポロを行う競技である。
第 6 位はイギリス発、富裕層だけが楽しめるセグウェイを使ったスポーツ。ケンブリッジ大学院生の篠原肇さんによると、セグウェイポロというスポーツとのこと。

このほかにも、出演や、取材や、記事など、様々な依頼をいただくようになってきている。
その他は、個人ブログ「はじめのすすめ(hajime77.com)」を参照ください。

終わりに

恐らく最後であろう半年置きの奨学生レポートの執筆となった。

特に今期は受賞が相次いだ。おそらく「日本人初」を連発していると予想しているが、現在では、「そもそも国籍でどうこう言うのは、『どの国の代表として国際大会に出場するか』以外ではナンセンスである」と感じるようになった。

受賞や記事、講演などに伴って、さらにいただく問いあわせや依頼も増えてくるようになった。

本レポート提出の直前、船井グループの会長で、本船井情報科学振興財団の理事長でもある船井哲良氏がご逝去されました。船井哲良会長は、日本人が国際社会でプレゼンスがなくなっていくことを悲しく思われていたようです。個人的には、国内外、多数の分野で表彰や特集をされている実績は、わずかながらも理事長の意向に沿えているのではないか、と考えています。とはいえまだまだであるのは明らかであるので、今後も頑張っていきたいところです。

最後に毎回繰り返し言及させていただいておりますが、このような多岐にわたる経験を積ませていただけていることは、ひとえに船井情報科学振興財団による多大な支援があってのものです。支えていただける環境に感謝し、今後も日々精進いたします。